

第7回となる今回から、その名称を「HK デザインアワード」とリニューアルした本アワード（旧北海鋼機デザインアワード）。その応募登録が2025年7月1日（火）より始まっています。前回の審査で得た手応えから視点が広がり、より鉄の持つ力を引き出すような新しいテーマが掲げられました。そして、審査基準にもそれを補完するような項目が加わりました。7月31日（木）には審査委員6名および開催関係者が顔を合わせ、テーマにこめた想いの説明や審査への期待などが語られました。その内容をお伝えします。これから応募される方は参考に！

●鉄の魅力を広げるテーマ、それに伴う審査基準の追加点

・「〜とともにある鉄」が新たなテーマ

今回のテーマの主旨については本アワードのポスターのリード文に記されている通りですが、当日は松島審査委員長より、そこにこめた意味や想いを改めて語っていただきました。松島：前回の第6回では「原風景」というテーマを掲げさせていただいたのですが、審査するなかで（次はどういう新しい視点が生まれるだろうか？）と思いながら拝見していたところ、色々な素材のなかで相対的に際立つ鉄の役割や、それぞれの周辺環境との関係性のなかで鉄が発揮している力のようなものに改めて気付かされました。特に「ダニング」という手法を用いた（最優秀賞の）『盤溪の家』では、様々なマテリアルが慎重に選ばれ、ひしめき合っているなかで、立面の大部分を占める重要な屋根面に板金が使われているところに、鉄への強い信頼性や魅力が表れていると感じました。そこで、今回のテーマは「鉄と“何か”」という他要素とのクロスオーバーだったり、コラボレーションに注目していこうと思った次第です。最初は「〇〇とともにある鉄」としていたのですが、（事務局の）弘田さんと「〇がスチールパイプみたいですね」「せっかくなら板金っぽくした方がいいかも」といった話を交わして、「〇〇」を「〜」と波板のように見せるタイトルに変更しました。どう読んだらいいのか自分でもわからないのですが（笑）、「〜（なにに）とともにある鉄」を今回のテーマ名として掲げさせていただきました。

・審査基準の追加点

前回までの審査基準に、新たな項目が一つ加わりました。下記、5つ目です。鉄の使用によって、下記のいずれかあるいは複数の項目に該当する作品を評価します。

- ・優れた景観形成に寄与する外観をもっている
- ・建築内部または周囲に優れた空間や領域を形成している
- ・独自性・新規性・将来性のある鉄材の利用をしている
- ・鉄の特性や経年変化を活かした造形・表情を提案している
- ・鉄が他素材や人・環境・時間等との新たな関係を導き出している

詳しくは、（公社）日本建築家協会北海道支部ホームページの特設ページにてご確認ください（右記 URL、QR コード）。

※なお、本アワードの名称は共催者の名称変更（旧北海鋼機株式会社→現日鉄鋼板株式会社）により、今回より「HK デザインアワード」となりました。H=北海道、K=鋼板、という意がこめられています。

●審査員から寄せられた審査に対する想いと期待（敬称等略）

松島：（ポスターの）最後のパラグラフにも書きましたが、テーマの「〜」というところは、直接的な意味合いで木・石・土とかの他素材ということでももちろんいいですし、環境という側面で言えば、森・海・山・川・空とかでありますし、もっと言えば、時間・人・まち・歴史・風土などという抽象的な概念まで広げていくと、実は間口がすごく広く、応募者の方にとってもいっぱいアクセスできる余地があるのではないかと思います。本当にいろんな応募作品が来てくださることを願っています。

大塚：「〜とともにある鉄」というテーマのもと、みなさまの作品で鉄の新たな出会いと可能性を四季折々の豊かな表情をみせる北海道で切り拓かれることを楽しみにしています。皆様の熱意と情熱あふれる作品に出会えることを心より楽しみにしています。

小西：木、ガラス、鉄、コンクリートの四素材は建築の構成部材の要である。どんな建築もこれらの素材抜きには成り立たない、その中で今回は「鉄」が主題ではある。それは使用量の問題ではなく、いかにその部位で効果的に建築を引き立てているかが肝である。そしてその建築が置かれた環境で鉄が入ることにより引き立ち、ある一方で馴染んでいるかも重要である。

川島：鉄という素材が持つ可能性を北海道の地でどのように表現されるのか、とても楽しみにしております。頑丈さと柔軟さを兼ね備える鉄ですが、みなさまの創意工夫によってその特性が生かされ、どのようなものと共存することで新しい価値が生み出されるのか。今回もこのアワードを通じて、素晴らしい作品に出会い、たくさんの感動をいただけることを期待しております。

佐藤：「〜とともにある鉄」というテーマには、想像力を問う力強さがあり、「鉄」を通して建築の可能性をいかに拓けるかという問いに誠実に向き合った建築に出会えることを期待しています。私自身は小規模な案件に携わることが多いため、今回の審査で大規模な建築や公共的・商業的なプロジェクトに触れられることも楽しみです。自分の価値観に閉じずに多様な視点から審査に臨めればと思っています。

酒井：普段「まちづくり」という掘りどころのない領域に軸足を置いて環境デザインやアートプロジェクトを実践しております。今のまちづくりには、従来のようなマスタープランありきではなく、小さな空間や場を起点に活動や事業を積み上げながら、多様な主体との協働性を創出していくことが求められています。

今回のアワードでも、鉄とともにある一つの物理的な環境体がまちに波及し他分野とつながっていくプログラムや、人々を巻き込むプロセスをまとった作品を楽しみにしています。



以上、今回はとても間口の広いテーマ設定となっています。鉄のインクルーシヴな力について、応募者のみなさまと考察を深める契機となることを期待しながら、たくさんのご応募をお待ちしております！



第1回審査委員会
日時：2025年7月31日（木）
会場：日鉄鋼板株式会社北海道支店
参加者：
審査委員長
松島潤平
〔北海道大学大学院工学研究院准教授〕
審査委員
大塚正樹
〔日鉄鋼板株式会社北海道製造所所長〕
小西彦仁
〔（公社）日本建築家協会（JIA）副会長兼北海道支部長〕
川島隆司
〔北海道板金工業組合理事長〕
佐藤圭
〔三木佐藤アーキ〕
酒井秀治
〔北海道教育大学岩見沢校准教授〕
事務局
弘田亨一
〔実行委員長／（公社）日本建築家協会（JIA）北海道支部〕
小倉寛征
〔（公社）日本建築家協会（JIA）北海道支部〕
原口佳己
〔日鉄鋼板株式会社北海道支店〕
佐藤正人
〔日鉄鋼板株式会社北海道支店〕
記録
登尾未佳

応募要項など詳しくは下記へアクセスしてご確認ください。

